

景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(令和6年3月)

～株高効果は薄く、物価上昇等の影響で現状判断は低下～

- 景気ウォッチャー調査・3月調査の近畿地域の結果は、現状判断が50.5と前月比で2か月ぶりの低下(−3.0ポイント)となった。好不調の判断の目安となる50.0は19か月連続で上回っている。一方、先行き判断も49.2と5か月ぶりの低下(−4.6ポイント)となった。
- 足元の景気については、インバウンド市場は引き続き好調な推移となっており、百貨店やホテルを中心とした関連業界では、需要の増加がみられる。その一方、気温が例年よりも低めとなったことから、春物商材は全体的に厳しい状況となっている。また、今月は雨が多かったことも、客足の減少につながった。株価が史上最高値を記録するなど、明るい話題はあったものの、日常の消費に対するプラス効果は限定的なものにとどまった。
- さらに、物価やコストの上昇による悪影響が、引き続き消費の重しとなっている。一部では消費者が値上げに慣れてきたという声もあるものの、実質賃金の前年割れが続くなか、節約志向が月ごとに強まっており、スーパーや小売店を中心に需要の鈍化につながっている。
- 景気の先行きについては、今春の賃上げに対する期待の声が多く、百貨店のほかスーパーや飲食店からも、客足の増加に期待する声が上がっている。加えて、今後もインバウンドの増加が見込まれる中、百貨店やホテル、コンビニを中心に、売上の増加を期待する声が多い。
- その一方、物価やコストの上昇に対する警戒感は、依然として非常に強い。消費者の節約志向が強まる中、価格転嫁が徐々に困難となっており、スーパーやレストランのほか、製造業などの企業関連でも厳しい声が聞かれる。さらに、社会全体で人手不足が深刻となる中、4月以降は運輸・建設業界の残業規制が始まることで、さらなる人手不足につながるとの不安が高まっている。
- 一方、マイナス金利の引上げの影響については、今のところ金利の変動も限定的なことから、大きな影響を予想する声は少ない。

「株高」関連のコメント(現状判断)

家計動向関連	やや良くなっている	百貨店(売場マネージャー)	・来客数が大きく伸びており、訪日外国人の消費も活発化している。国内客は消費意欲が喚起されている傾向はみられないが、株価が最高値を更新するなど、今後は外部環境の後押しを受けることが予想される。
		百貨店(宣伝担当)	・新生活需要や春の行楽需要が高まる時期に、賃上げや株高などの要素が加わり、客の購買意欲が高まっている。特に、更なる値上げが予想されるハイブランドを中心に、高額品の伸びが顕著である。
		乗用車販売店(支店長)	・株価の上昇による影響が出ている。
		その他レジヤ施設 [複合商業施設](職員)	・株価が史上最高値を更新し、消費マインドが改善している。

家計動向関連	変わらない	百貨店（販促担当）	・ここ数か月の傾向に大きな変化はない。インバウンドについても、エリアの特性上、目立った増加はみられない。また、気温が低い影響でファッション関連は苦戦している。一方、株価の上昇により、高額品の動きはやや活発化している。
		その他専門店〔宝石〕（経営者）	・物価の上昇が、消費者には最も大きな負担となる。株価は上がっているが、電気代やガス代を含めた物価上昇の影響は厳しいものとなっている。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経理担当）	・米国株や国内株の株価上昇で、投資利回りは上向いているが、物価の上昇に賃金の上昇が追い付いていない状況では、身の回りの景気が良くなっている実感はない。
		旅行代理店（支店長）	・株価の上昇やマイナス金利の解除といった前向きな動きと、一般客の動きが連動していない。生活以外に使えるお金は増えておらず、客の心理としても、旅行に行こうというレベルには達していない。旅行に行きたい気持ちはあるが、一部の富裕層以外は顕在化していない。
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕（経営者）	・株価の上昇や賃上げなどのプラス材料はあるが、中小企業は金利の上昇による影響を受けるため、身の回りの景気は上向いていない。
企業関連	変わらない	窯業・土石製品製造業（管理担当）	・物価の上昇が続いている。春闘では大企業を中心に賃上げが進んでいるが、実質賃金が増えている実感は乏しい。株価も史上最高値を更新しているものの、実感は余りない。
		電気機械器具製造業（経理担当）	・国内需要と海外需要による利益のほか、為替や株高による利益の内容は、別々に認識されるべきである。
	悪くなっている	その他非製造業〔電気業〕（営業担当）	・株価は上がっているが、景気への好影響はみられない。
雇用	変わらない	新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・株価が史上最高値を更新するなど、景気が上向いている事実はあるが、それに比例して日本全体の景気が上向いているとは考えられない。

「賃上げ」関連のコメント（先行き判断）

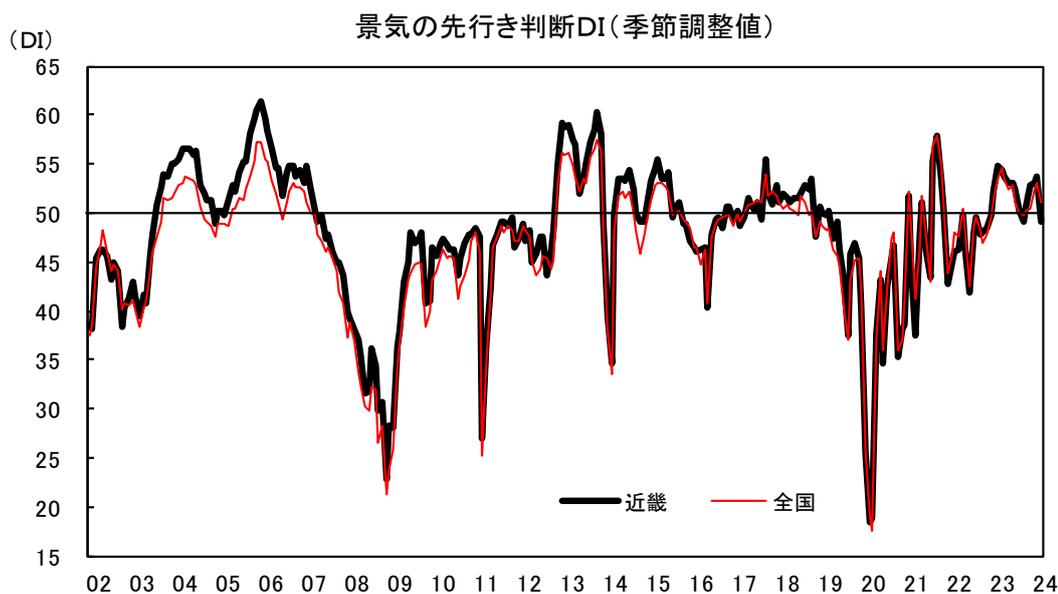
家計動向関連	やや良くなる	スーパー（店長）	・春闘では大手各社の賃上げが進むため、その効果に期待している。
		スーパー（企画）	・賃上げの流れに加え、インバウンド需要も増えていることから、当面は良くなる。
		スーパー（社員）	・若い客層を中心に、賃金の上昇への期待感が強い。これまではメーカーや取引先の値上げによる客の買い控えが目立っていたが、少しずつ買物意欲が回復すると期待している。
		衣料品専門店（店長）	・海外からの客が顕著に増えている。客との会話では、大企業を中心とした賃上げによる好景気が期待できそうである。ただし、まだまだコストの増加に対する懸念は残る。
		家電量販店（人事担当）	・行楽や旅行などの活発な動きに合わせて、カメラなどの購入が増えることを期待している。また、賃上げの動きに伴い、滞っていた家電の買換えも徐々に進むと予想される。
		乗用車販売店（支店長）	・春闘はおおむね順調に推移しており、賃金の上昇が期待される。
		観光型ホテル（経営者）	・景気が良いとはいえないが、賃上げなどの情報が増えているため、プラスの方向に進むと期待している。
	変わらない	百貨店（売場主任）	・マイナス金利の解除により、賃金や物価の動きに影響が出ると予想される。ただし、景気にどのような影響が出るかは不透明である。国内の中間層や若い世代に恩恵がなければ、消費の回復には簡単につながらない。
		百貨店（企画担当）	・原材料価格の高騰や人件費の上昇もあり、商品原価の値上げが続いている。報じられているような大幅な賃上げは、大半の消費者には無関係であり、生活防衛意識の向上に伴い、購買意欲は下がっている。
		百貨店（商品担当）	・マイナス金利の解除や賃上げ、政治情勢や社会環境の不安定化など、少し不透明な部分が増えており、全体としては変わらないと予想される。
		百貨店（マネージャー）	・小売業の大きな流れは変わらない。国内の中間層は賃上げへの期待もあるが、物価の上昇もあり、モノの購入は慎重な姿勢が続くそうである。その反面 レジャーや旅行、イベントなどの消費は活発になるため、日常的には節約消費で、非日常では積極消費という構造となる。
		スーパー（店長）	・賃金のベースアップは行われるが、商品の価格も同時に上昇している。結果として、買物時の慎重な姿勢に変化はなく、早急に景気が上向くことは考えられない。
		スーパー（企画）	・賃金のベースアップや最低賃金の引上げもあるが、物価の上昇を吸収し切れない。マイナス金利の解除などのマイナス要素もあるため、景気に大きな変化はないと予想される。
		住関連専門店（店員）	・賃上げなどが報じられているが、中小企業には全く関係のない動きであり、物価の上昇が相変わらず続いている。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経理担当）	・大企業の賃上げ状況から、景気的好循環が進んでいるイメージはあるが、大部分の中小企業にとって、賃上げや価格転嫁は今後の課題という意識が強い。
その他小売〔ショッピングセンター〕（総括）	・大企業の賃金は上がっているが、中小企業は厳しい状況が続いている。物価上昇のムードを受けて、支出を抑える傾向が続くと予想される。		

家計動向関連	変わらない	その他飲食〔自動販売機（飲料）〕（管理担当）	・大企業では賃上げが行われる一方、中小企業ではその声すらなく、不安しかない。
		遊園地（経営者）	・賃上げの効果が大企業に偏っているとみられ、全体の景気回復にはなかなかつながらない。
		その他レジャー施設〔複合商業施設〕（職員）	・企業業績の改善で、賃上げ効果の波及が期待される一方、多岐にわたる値上げや、株価の調整に対する警戒感もある。
	やや悪くなる	スーパー（開発担当）	・春闘の労使交渉では、大企業は満額回答をしているが、当県では中小企業が約7割を占めている。中小企業の賃金が上がらない限り、景気は回復しない。
		乗用車販売店（経営者）	・賃上げが全体には行き渡らず、物価の上昇が先行すると予想される。客の間では、低価格志向が復活し始めている。
		その他専門店〔食品〕（経営者）	・大企業の賃上げは進んでいるが、中小企業は思うように進められないため、物価の上昇に付いていけない状況になってくる。
企業関連	変わらない	一般レストラン（企画）	・物価の上昇による消費の低迷が、賃上げによってどの程度改善されるかは不透明である。円安基調も継続するなか、更なる物価の上昇が懸念される。
		窯業・土石製品製造業（管理担当）	・働き手の約7割を占める中小企業の賃上げが、どの程度進むかが注目される。物価の上昇が続いているほか、マイナス金利の解除で4月からは預金金利が引上げとなるが、貸出金利も上がることから、その影響を注目したい。
雇用関連	変わらない	一般機械器具製造業（設計担当）	・世間的には、賃上げや株高で景気が良いといった報道も増えているが、身の回りでは賃上げが困難なケースもみられる。
		人材派遣会社（役員）	・賃上げや株価の状況、採用の動向など、景気の上向き要素はあるが、人手不足の慢性化や、海外の紛争が激化する可能性、米国大統領選挙による米国社会の分断加速など、不安定な要素が多い。
雇用関連	変わらない	学校〔大学〕（就職担当）	・中小企業はなかなか賃上げが進まず、大企業との2極化が予想されるため、すぐに景気が良くなるとは考えられない。

「マイナス金利」関連のコメント（先行き判断）

家計動向関連	変わらない	百貨店（売場主任）	・マイナス金利の解除により、賃金や物価の動きに影響が出ると予想される。ただし、景気にどのような影響が出るかは不透明である。国内の中間層や若い世代に恩恵がなければ、消費の回復には簡単につながらない。
		百貨店（商品担当）	・マイナス金利の解除や賃上げ、政治情勢や社会環境の不安定化など、少し不透明な部分が増えており、全体としては変わらないと予想される。
		スーパー（経理担当）	・マイナス金利が解除され、預金金利が上がる一方、借入金利も上昇する見込みであるが、本格的に上昇するまでには時間が掛かる。当面は物価上昇の影響の方が大きいと予想される。
		スーパー（企画）	・賃金のベースアップや最低賃金の引上げもあるが、物価の上昇を吸収し切れない。マイナス金利の解除などのマイナス要素もあるため、景気に大きな変化はないと予想される。
		競輪場（職員）	・マイナス金利が解除となり、株価も上昇している一方、物価の上昇や円安傾向の継続もあり、先行きの見通しは不透明である。現時点では、前年などの状況から判断すると、大きな変化はないと考えられる。
企業関連	変わらない	窯業・土石製品製造業（管理担当）	・働き手の約7割を占める中小企業の賃上げが、どの程度進むかが注目される。物価の上昇が続いているほか、マイナス金利の解除で4月からは預金金利が引上げとなるが、貸出金利も上がることから、その影響を注目したい。
		通信業（管理担当）	・このタイミングでのマイナス金利の解除が、プラスに働く感覚はないほか、景気回復の材料が見当たらない。
	悪くなる	金融業〔投資運用業〕（代表）	・株価が高水準で推移しているが、恩恵を受けている人はそれほど多くない。マイナス金利の解除も、大手金融機関は潤う一方、住宅ローンを抱えている人たちの負担は増える。結果として、今後もできる限り消費を抑えるという心理は続きそうである。

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		22年			23年												24年									
		3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
現 状 判 断	近畿	46.8	48.5	50.7	50.7	38.8	43.3	50.8	51.3	51.6	52.3	51.5	52.9	53.7	54.2	53.8	53.1	53.4	53.2	52.6	51.1	52.8	53.0	50.1	53.5	50.5
	(全国)	46.4	48.3	51.8	51.8	43.0	45.5	49.5	51.8	50.6	49.8	49.2	52.1	52.6	53.3	53.5	53.2	53.4	53.5	50.7	50.7	50.8	51.8	50.2	51.3	49.8
先 行 き 判 断	近畿	46.0	46.3	49.9	46.3	41.8	48.0	49.6	47.9	48.1	48.4	49.7	52.3	54.8	54.5	53.7	53.0	53.0	52.4	50.2	49.1	50.6	52.8	53.1	53.8	49.2
	(全国)	48.1	47.5	50.4	48.1	42.6	48.8	49.6	48.2	47.0	47.8	49.5	51.4	53.6	54.6	53.5	52.4	52.8	51.1	50.1	49.8	50.3	50.4	52.5	53.0	51.2

※季節調整値